

空知地域づくり連携会議（南空知ブロック会議）共創ミーティング資料

# 最近の共創の取組みについて

岩見沢市

## （1）スマート農業

少子高齢化により、労働力不足となる中、特に農業分野では、生産者の高齢化による作業負担増加や担い手不足が深刻化

地域産業の根幹である国内の農業生産を維持・拡大のため、農作業のスマート化による省力化や生産性向上が重要

### スマート農業の主な取り組み

- H25年度 位置情報配信サービス提供開始  
農業気象配信サービスの提供開始
- H26年度 総務省「G空間シティモデル構築事業」
- H27年度 農水省「ロボット技術導入実証事業」
- H28年度 農水省「革新的技術開発・緊急展開事業」
- H29年度 内閣府「次世代農林水産業創造技術で取り組む多収と高品質を実現するための気象変動に対応した最適栽培管理システム」
- H30～R3年度 内閣府「未来技術社会実装事業」
- R元年度 産学官連携協定締結（北海道大学、NTTグループ、岩見沢市）  
農水省「スマート農業加速化実証事業」
- R2年度 総務省「ローカル5G等を活用した地域課題解決実証事業」
- R2～R3年度 農水省「スマート農業実証事業（ローカル5G）」
- R3～R4年度 農水省「スマート農業実証プロジェクト（ローカル5G）」
- R4年度 総務省「課題解決型ローカル5G等の実現に向けた開発実証」
- R5年度 総務省「地域デジタル基盤活用推進事業」
- R5～R6年度 農水省「戦略的スマート農業技術の実証・実装」
- R5～R7年度 農水省「下水道資源の活用促進モデル実証」



産学官連携協定締結式



令和4年度「情報通信月間」  
北海道総合通信局長表彰



令和6年度「情報通信月間」  
総務大臣表彰

## （2）ワイン

R7.2「空知ワイン協会」が発足  
岩見沢市においても、4件のワイナリーが存在

新たな強み（地域資源）として、  
将来を見据えた中長期的な取組みを検討



## 人口減少・少子高齢化に伴う利用者の減と担い手不足

様々な行政課題の背景には、人口減少・少子高齢化に伴う利用者の減と担い手不足が存在



- 医療 ~ 医師不足、患者の減
- 交通 ~ 乗務員不足、利用の減
- 農業 ~ 就農者数の減 など

年	人口 (国勢調査)
1995	97,042人
2000	96,302人
2005	93,677人
2010	90,145人
2015	84,499人
2020	79,306人
2025 (12月末住基)	72,771人

年	高齢化率 (国勢調査)
1995	16.9%
2000	20.6%
2005	24.1%
2010	27.8%
2015	32.6%
2020	36.5%
2025 (12月住基)	38.8%

### （1）南空知定住自立圏における取組み

- ▶ 国の要綱に掲げられる全17分野での連携に向けて協定締結
- ▶ 優先度や難易度を踏まえ、9分野・12カテゴリから具体的な連携の取組みを開始
- ▶ 中長期的な目線で具体的な連携を徐々に拡げていき、南空知での生活環境を確保



運転手確保支援金創設



そらちグルメファンド開催

### （2）新病院建設に向けた取組み

【目的】

施設の老朽化・狭あい化などの課題を克服し、高度化・多様化する地域の医療ニーズへの対応や、南空知医療圏の基幹病院として、療養環境の確保を図る

<今後の予定>

- 令和8年4月 岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院の経営統合
- 令和10年秋 新病院開院

令和10年秋



## 北大COI（北大COI-NEXT）

北海道大学COIとは、北大を中心とした産官学が連携した取組み。  
主な参画企業は森永乳業、日立、ツルハなど。自治体では、岩見沢市は当初から参画しており、北海道大学COI-NEXTの取組みからは、札幌市や小樽市なども参加。

COIとはセンター・オブ・イノベーションの略で、文部科学省・科学技術振興機構が実施しているプログラム。  
10年後、どのように社会が変わるべきか、人が変わるべきか、その目指すべき社会像を見据えたビジョン主導型の研究開発を支援するもの



活動拠点  
フード&メディカルイノベーション（FMI）国際拠点



健康経営都市宣言認定（H28.6）  
※全国初

## 母子健康調査

### 母子健康調査とは

子どもの成長や発達に及ぼすさまざまな要因を明らかにするほか、出生率の向上及び低出生体重児の減少などを目的に、妊娠中の生活環境をはじめ、生まれた子の生活習慣や健康状態などを継続的に把握する調査（H29.6開始）

低出生体重児の減に向けた産学官による  
これまでにない取組みとして高い評価

- R3.2 日本オープンイノベーション大賞(日本学術会議会長賞)
- R3.7 学術誌Natureにおいて北大COIの取組みを紹介
- R3.10 プラチナ大賞(大賞・総務大臣賞)
- R3.12 「健康寿命をのばそう！アワード」厚労大臣賞 団体部門 優秀賞



## 母子健康調査の研究成果

離乳期のビフィズス菌の定着に、免疫物質「 $\alpha$ ディフェンシン」が関与していることを確認  
～乳幼児の腸内環境と将来の健康をつなぐ自然免疫の働きを解明～

### 【概要】

- ・1歳前後の離乳期に腸内の善玉菌であるビフィズス菌が多い子どもは、腸内細菌のバランスが整うとされる3歳の時点においても、ビフィズス菌が多い状態が継続
- ・離乳期におけるビフィズス菌の定着に、小腸の細胞から分泌され、悪玉菌を殺す免疫物質「 $\alpha$ ディフェンシン」が関与

### 【今後の展開】

幼少期にビフィズス菌が豊富な腸内環境を形成することで、将来、疾患になるリスクを下げられる可能性があるため、乳幼児の腸内環境を改善する機能性食品などの開発を進め、子どもたちの健康増進に貢献することを目指す

※研究成果は、国際学術誌『Communications Medicine』に掲載

## 森永乳業株式会社との連携協定の締結

岩見沢市と森永乳業株式会社が包括的な連携のもと、健康分野で相互に協力し合い、市民の健康増進や健康科学による地域の発展に貢献することを目的として、令和7年7月9日に「健康増進に関する包括連携協定」を締結



森永乳業株式会社から食育かるたの寄贈があり、市内の保育所・幼稚園・認定こども園等に配布しました。このかるたを通じて、遊びながら食の大切さや栄養について楽しく学ぶ機会を作っていきます。

